

番号	6	名称	日比谷高校資料館・正門・塀
----	---	----	---------------

指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	永田町二丁目 16 番 1 号
設計者	不詳	竣工	大正 5 年 (1916)



歴史・文化的特徴

明治 11 年 (1878) に東京府第一中学として創設。戦前・戦後を通じて多くの人材を輩出した名門校。

遅刻坂 (新坂) は明治 10 年代にできた坂で、昇り切ると右側が日比谷高校、左側がメキシコ大使館で、毎朝高校や官庁へ急ぐ人がカバンを抱えて駆け上がって行ったことから命名された。

資料館は元村井邸の美術品収納倉庫だったもので、高校の百周年記念事業として整備し、資料館として現在も使用している。年に 1 度の学園祭の時には内部が公開される。

意匠・構造の特徴

資料館は白いタイル仕上げ。土蔵を思わせる構成で、道路沿いの立面は、リズムカルに並べられた切妻破風と軒樋が白い壁を太く縁取り、窓の配置、豎樋のアクセントが巧みだ。アールヌーボーの移植で有名な武田五一が関与したといわれる。

正門は、明るい色の赤レンガに白い花崗岩の帯をまわし、大学の門に匹敵する格調高いもの。

周辺景観との関係

明治期に煙草王と呼ばれ、後に村井財閥を興した村井吉兵衛の邸宅だった場所。周辺にはメキシコ大使館や日枝神社、衆参議長公邸があり、緑の多い場所である。

急な坂道を見下ろす資料館は、坂道の印象を強めている。